

# あらい歯科新聞



## 夏号

## つめたい水に歯がしみる、いたい！

### 知覚過敏とは何か？

歯の最表層にあるエナメル質は痛みを感じることはありませんが、その内層にある象牙質は器具でこすったり、冷たいものや熱いもの等に触れると、その刺激は内部の神経に伝達されて、歯は痛みを感じます。

通常、象牙質はエナメル質に覆われているので、こうした痛みを感じることはありませんが、様々な理由で象牙質が露出すると、刺激が神経に伝達されやすくなり、知覚過敏が生じるようになります。

### ☆ 知覚過敏の原因は？

#### (1) 歯肉の退縮

歯肉の位置は、不適切なブラッシング習慣により下がることがあります。また加齢とともに少しずつ下がってきます。それに伴って歯の根っこが露出し、象牙質がむき出しの状態になります(図1)。このような象牙質表面では、歯ブラシが触れたり、温度変化などの刺激で痛みを感じることがあります。



図1 歯の根元が露出した状態。知覚過敏の症状が見られた。

#### (2) 歯の破折

打撲などにより歯が破折して、象牙質が露出すると、知覚過敏症状が出る場合があります(図2)。破折時には、残っている歯に亀裂が入っていることもあります。亀裂の状態にもよりますが、歯の神経の部分にまで細菌が侵入して炎症を起こすこともあります。



図2 歯が破折して、内部の象牙質が露出すると知覚過敏が生じる

#### (3) 歯が擦り減ることによる象牙質露出

歯は使っていれば、わずかながら擦り減っていきます。その結果、エナメル質がなくなって象牙質が露出することもあります(図3)。歯の擦り減り方は人によって様々です。大きく擦り減ってしまっても知覚過敏が見られないこともありますし、わずかな範囲の象牙質露出でも知覚過敏が起きることもあります。



図3 すり減って露出した象牙質

#### (4) 歯が溶けることによる象牙質露出

エナメル質はpH5.5程度で溶け始めます。炭酸飲料を長時間かけて飲むような習慣や、酸っぱい飲み物や食べ物を頻繁にかつ長時間摂取するような習慣があると、私たちの歯は簡単に溶けて、内部の象牙質が露出します(図4)。このような状態の歯を酸蝕歯といいます。



図4 酸性の飲み物の頻繁な摂取で生じたと思われる酸蝕歯。

#### (5) むし歯の治療に伴う知覚過敏

むし歯の治療をした後、その歯に知覚過敏が起きることも時としてあります。歯を削るという処置そのもので、歯の神経が痛みを感じやすくなってしまふことや、治療法によって、かみ合わせた時に痛みを感じるようになるということもあります。しばらく経過を見て知覚過敏がなくなる場合もありますが、再治療を行うことや、神経を取り除く治療が必要になることもあります。

**知覚過敏に対する効果の高い処置として、露出した象牙質面をミクロの高分子の樹脂でコートする方法があります。しかし、症状がひどいときは歯の神経を取らなければならなくなる場合もあります。**

院長

★ フログやっています ★

あらいいい歯ドットコム

<http://arai118.com>



コメントやメッセージなど、  
お待ちしております!!  
お気軽にどうぞ☆

